

ABA新聞

編集
エイアンドビー
アシスト

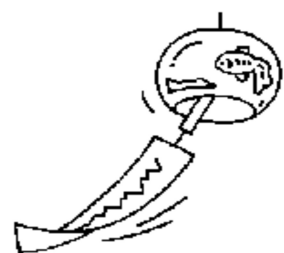
夏の雲

季節の到来を何で知り、どんなときに実感するかは、ひとによってさまざまであろう。私が夏の到来を「知る」のは、ドクダミの花によってだが、それを「感じる」のは雲である。この知ると感じるは「理解」と「直感する」とに言い換えるのと分かりやすいかもしれない。



6月に南東北まで梅雨が明けたが、その何日か目、前日までは曇り日の肌寒い日が続いていたが久しぶりに晴れた。昼過ぎに出かけて見た雲が、今までとはまったく違っていた。奥羽山脈の上空に、幾層にも重なった厚い雲が空をおおい、さらにその上に白く輝く入道雲が立ち上がっている。迫力のある積乱雲だった。子どもたちの夏はよく水浴びやカシカとりで川に遊びに行った。ランニングシャツに半ズボン、麦わら帽子にゴム草履。そして、刺すような日差しと、青臭い背丈ほどもある草むら。山並みの上には高く光る入道雲。今

日の雲はそんなつかしい光景を思い出させ、(ああ、夏が来た)と「感じた」のである。人間が生まれてすぐに見るもの、それが太陽であり雲である。それからずっと空をながめて生きてきた。空を見ているということは雲を見ていることである。幼児に絵を描かせる時、きまって空には雲と太陽を描く。風景画や宗教画のほんども雲が描かれている。乗ってみたいような雲に異様で不気味な雲。魂が抜かれるほど高い雲に荘厳な雲。さまざまな雲をながめてきた。そのとき、何も考えず素直な気持ちになって、心をなごませてくれることに気がついた。いつしか、雲は疲れたときや不安や悩みがあるとき、ぼんやり雲をながめる癖がついた。だが、なぜかおおかたの雲は悪役である。危機



日本エッセイスト
・クラブ会員
野中 康行
(当社顧問)

が迫ると「暗雲が垂れる」とか「風雲急を告げる」といい、「雲行きが怪しい」と表現する。不快なときは「気分が晴れない」となるし、心配だと「顔が曇る」となる。「雲をつかむようだ」とか「雲隠れる」ともいう。雲は太陽を隠してしまうから悪役になってしまうのだらうが、空の主役は間違いなく雲である。いつときも形の定まらない雲は、めったに記憶に残らないものである。なのに、昨日の雲は覚えていなくても、昔の空を思い出させてくれる雲とは、不思議な「もの」である。

ドラレコ

「つながるドラレコ」
TVCMはもうご覧になられましたが、事故が発生すると、保険会社へつながらり、映像は保険会社へ自動転送されます。またご家族へもお知らせ通知が送られますので、いざというときとても安心です。
免許を取って間もない方には是非おすすめします！



現在ご加入の自動車保険に保険料月額850円を付けることができます。
只今、このドラレコ特約を追加された方にもれなく素敵なプレゼントをご用意しております。
気になる方はぜひお気軽にお問い合わせください。

これから各営業担当とともにお客様のところへお邪魔する事があるかと思ひますので、その時はどうぞよろしくお願いします。



昨年3月に入社し、損保ジャパンへ研修生として出向していた大坊朋史くんが7月1日付で本店へ戻ってまいりました。

編集後記

今年は東北南部で早くも梅雨明け宣言が出されました。各地で40度以上の気温が記録されるなど暑さのとても厳しい夏になりそうです。
クーラーの効いた涼しい家の中に籠っているのが、たまには「節電」のため、暑さ対策をしっかりとしよう！
もちろんドラレコも付けて安全運転で！

